屋内祭祀の舞台

―赤砂・小砂利の「祭壇状遺構」―

石坂俊郎

はじめに

大宮台地及びその周辺地域で発掘された弥生・古墳時代の竪穴住居跡に、赤みがかった砂や粘質土、小砂利(＝小礫)の集積が見出されることがある。小倉均は、それを住居内に設置された「祭壇状遺構」と評価した(小倉1988・1990)。以下、この名称を使用する。

その特徴は、素材や配置に共通性を示す一方、検出時の形状は一定でなく、有意な遺構であるのか判断つきかねる、あるいは存在自体見落とされかねない場合もあるらしい。「らしい」というのは、率直なところ筆者はそれを実見したことがない。そして報告の記述には「斯く斯くの物質(＝素材)があった」に止められたものが多く、詳細の確認には隔靴掻痒の感が否めない。しかし見落とされるか無為の産物と見做されていれば、記録にも留められなかっただろう。

屋内祭祀の遺構と評価されてから四半世紀余りが経ち、事例の報告は増えた。がほかに目立った進展はなさそうだ。意識されずに消滅している場合が今もあるとすれば、住生活における祭祀行為を示す遺構として、集落研究の手掛かりと思えば何とも惜しい。ここではふたたび諸例を通観し、見えるものをあらためて整理する。小倉の仕事との重複を顧みず現時点の里程標を立て、注目をリフレッシュさせたいというのが起稿の動機である。今後にどうつながるか、それについては後述したい。

1　遺構のあらまし

砂や小砂利から成る「祭壇状遺構」は、現状ではさいたま市域を主体とする大宮台地南部に多く見出されるが、川越市、板橋・世田谷区、八王子・日野・横浜市など武蔵野・下末吉台地地域にも点在する。とりわけ八王子市神谷原遺跡(文75・76)では、全面調査された集落跡で検出された169軒余の竪穴住居跡のうち55軒、およそ三分の一で確認されており、分布域の中でも件数の多さと率の高さで突出した存在となっている。その点からしても、視野を大宮台地に絞り込むことは片手落ちのそしりを免れないが、本稿では次の機会を期して暫定的にそうさせていただく。

確認できる存続期間は、弥生時代中期宮ノ台式期～古墳時代前期で、量的には弥生後期後半から古墳前期前半が主体である。大宮台地地域では、弥生中期集落は存在感が希薄で、小規模集落が点在するにとどまる様相を示している。しかしその状況下で７遺跡に例が認められる点に注目すれば、宮ノ台式期から萌芽的というより既に主流といえる存在にも見える。当該期の集落は、いずれも部分的な調査だが、大北遺跡(文７・22)では11軒中６軒で確認されており、率では同遺跡の後期集落を凌ぐ観がある。一方、古墳前期では、集落分布はやはり低調であるが、柱状脚高杯と小型丸底坩が供献土器群の主体となる段階には例がなく、同期の中に下限があることを示唆している。

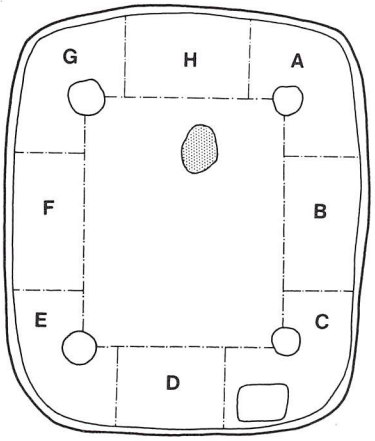
形状と配置について、小倉のまとめを借りて概述する(前掲小倉1990)。

①「小礫、砂、粘土などを褐色土と混ぜ合わせたようにみえる」土を、「床面に数cm～10cm程盛り上げ、壇状にしている」もの。これが大部分を占める。

②「小礫などを含む褐色土」と床面の間に「それらをほとんど含まない褐色土」が挟まる、すなわち床面に盛られた(ただし突き固められてはいない)後者の上に前者が載せられているもの

③「台状遺構と呼ばれる一段高くなった上に小礫などを含む褐色土がみられ」るもの

④そして「浅いくぼみ上のピットの上に小礫などを含む褐色土などを盛り上げている」ものがある。



第１図　住居内区分図
(小倉1990)

出土位置には、顕著な傾向がある。小倉の区分(第１図)を用いれば、建物内縁辺のＣ空間すなわち主軸方向で炉が寄る壁面(多くは短辺側)の対面、炉に向いて右手コーナー付近(図右下)に集中する。炉の対面Ｄ空間に出入口を想定すれば、Ｃは梯子等の昇降用装置と建物主柱によって中央と区分された空間であり、「貯蔵穴」とされるピットとそこに同居するのが通例である。ほかに少数だがＡ・Ｄ・Ｅ空間に位置する場合が認められる。

１　今日的描写

ここで扱う件数は、大宮台地地域では52遺跡183件である(表１・２[1])。他地域のものとして、神谷原遺跡の52件をこれに加える(表３)。

(１)形状

平面規模は、径10～150cm以上にわたり、ばらつきが大きいが、概ね50～100cmが分布の中心となるようだ[2]。報告された形状は、「堆積」・「盛られた」などある程度の厚みを思わせるものと、「散布」・「敷かれた」などそれを感じさせない場合がある。厚みの数値は30余例報告があり、10cm以下が８割強を占める一方、20cmに及ぶものが３例ある。それらのうち下野田稲荷原遺跡114住(文64・第２図１)、三崎台遺跡52住(文49・第２図２)、同19住(第３図３)、同28住(同前４)例のような、壁に接合する略方形壇状のあり方は、本来的容姿の一類型と見做される。一方、床に撒き敷いたような薄い広がりも同様か、あるいは盛り上げられた「砂山」が崩壊拡散した結果なのか。可塑性に乏しい砂の材質からして、後者の蓋然性が優勢なように思える。しかしそれが前者だとすれば、いきなり神祇との付会は唐突に過ぎるかもしれないが、砂と砂利の広がりは「神迎えの場」としてのダブルイメージを禁じ得ない[3]。ともあれ複数の姿があった可能性を、ここでは留保しておきたい。

(2)素材と立体構造

既述の通り、素材の基本は砂、小砂利である。土(砂質土、粘質土、粘土)の存在は、報告からは読み取れない場合が多い。際立った特徴がなければ遺構覆土と識別しがたいためだろうが、それが加わる場合、前章①のように三者が混和されるものと、同②のように層状に重合する場合がある。両者の折衷型(混和層と純層の重合)もあるだろう。

小砂利の大きさは、報告されたものでは径1～1.5cmが概ね上限となるようだ。小倉によれば、表面が滑らかに摩耗したものが多いことから、河川から採取された可能性が高く、そして馬場北遺跡では荒川水系由来のチャートや硬砂岩が多いという(前掲小倉1990)。ほかに報告例を知らないが、これが当地の一般的状況ではなかろうか。なお宮前遺跡(文11)で「軽石」、行谷遺跡(文33)で「貝巣穴痕泥岩数点」(いずれも大きさ不詳)の報告がある。

一遺構あたりの小砂利の使用量は、札の辻遺跡72住(文73)で約500g、稲荷台遺跡51住(文74)で432gと報告されている。「祭壇状遺構」と離れた空間では、戸塚5丁目遺跡5次調査3住(文70)で炉から28粒、同4住では土壙中から148粒が出土している。稲荷台遺跡48・49住でも炉からの出土が報告されており、炉との関連を意識すれば加熱処理、土壙中のまとまりからは貯蔵の可能性が想起される。

なおこれら主要構成材のほかに、神谷原遺跡では「灰」の混和が6件指摘されている。

一部既出だが、立体構造の詳細が知られる稲荷台51住例をあらためて掲げる。

「本住居跡では、貯蔵穴～東隅間の床面の小礫集中部分の状況が明瞭に検出された。約70cm×50cmの楕円形の範囲に、3～4cm程度の高さでロームブロック混じりの暗褐色土を盛り、更にその上を直径1～3cm程度の多量(総量432g)の小礫で覆うもので、室内祭祀等との関連も考えられた。なお、同様の小礫は炉床上面でも少量検出されている。」(文77)

またC－26号遺跡1住(文45・第2図4)では、砂・小砂利の範囲の端に径2～3cmの灰白色粘土塊が10×20cmの範囲に分布している。峰岸北遺跡21住(文51)例では、堆積の底部に径30cmの円形小砂利層が認められる。このように、ほかにも特徴的な構造が存在するようだ。遺構の平面規模には、径30cm以下の例が20弱ほどあるのは前節で見たところである。それらは小規模ながら全容を示しているか、あるいは断片化したものともいえそうだが、遺構の核的な部分(いわば卵黄のような)のみ残存していた可能性も考えられる。

(3)赤の演出

赤い発色は、この遺構の際立った特徴である。存在が認識され始めた頃、ゆえに焼土と見做された例もある。赤色の効果が、古来精神生活上多大な影響力を持ち得たことは論をまたない。もっとも検出時における発色の度合いにはばらつきが大きく、赤味について言及のない報告も多い。神谷原遺跡では、豊富な事例にもかかわらずそれがほとんどない。本来着色されていても、砂利や砂の性質からしてそれが定着しにくく、条件によっては脱色したのか。あるいは赤彩が必須要件ではなかった可能性も残される。

どう赤くしたのか。具体例として、大崎北久保遺跡2住(文28)で酸化第二鉄(弁柄:ベンガラ)の使用が確認されており、御蔵山中遺跡14住(文50)、横根野方遺跡3住(文66)でもその可能性が指摘されている。またA－146号遺跡8住(文48)では、小砂利の堆積上に焼土が載せられて

遺跡名	調査	遺構	時期	位置	貯蔵穴	位置関係	規模（cm）	構成材	特記事項	遺物関連事項	文献
下野田稲荷原	1次	1	後	C	有	土堤脇	90 × 80	砂質土・小砂利	砂質土赤褐色	端から小型壺片	1
		2	後	C	有	土堤脇・上	100 × 110	砂質土・小砂利	砂質土赤褐色・礫混和	—	
	7次	57	後	C	有	脇、土堤上	104 × 88	小砂利	高８cm	—	62
		58	後	C	有	上・脇	120 × 70	小砂利	貯蔵穴脇の浅い掘り込み上、貯蔵穴にかかる	—	
	11次	100	後	C	有	脇	50 × 43	小砂利	—	—	64
		112	後	C	有	土堤脇	75 × 60	小砂利	浅い掘り込み上	大型壺口縁破片	
		114	後	C	有	脇	62 × 50	小砂利	台形状の堆積、厚４cm	炉内から小砂利	
		115	後	C	有	脇、土堤上	90 × 82	小砂利	厚３～６cm	—	
本太５丁目	1次	1	後	C	有	上？・脇	—	砂・小砂利	砂、小砂利混和、厚10cm	—	2
井沼方	22地点	49	後	C	有	土堤端	150 × 130	小砂利・土	—	—	3
	25地点	90	後	E	有	別コーナー	25 × 15	小砂利か	図示のみ	—	4
	26地点	95	後	C	有	土堤脇	45 × 40	砂・小砂利	—	—	
	12次	40	後	B？	—	—	80 × 40	砂・小砂利	堆積ややまばら	—	25
		41	後	C？	有	脇	50 × 40	砂・小砂利	堆積ややまばら	—	
		53	後	CかA	有	脇	20 × 10	小砂利	—	—	
	16次	79	古	C	有	脇	100 × 60	小砂利・砂	—	—	30
	13～	59	後	D	有	脇、中寄り	20 × 15	小砂利	—	—	31
	15次	64	後	C	有	土堤端	35 × 35	砂・小砂利	—	—	
井沼方南	4地点	12	後	C	有	土堤端・上	90 × 35	砂・小砂利	厚数cm	—	4
	3地点	9	後	?	—	—	20 × 20	小砂利か	浅い掘り込み上、図示のみ	付近から小型台付甕	
		10	後	A	—	—	12 × 10	小砂利か	図示のみ	—	
		13	後	?	—	—	65 × 45	砂・小砂利	厚数cm	甕破片	
	1地点	4	後	C	有	土堤端	60 × 30	砂・小砂利	—	—	31
別所子野上	1次	1	後	C	有	脇	90 × 50	砂・小砂利など	厚５～10cm	—	5
	4次	8	後	C	有	土堤脇	110 × 70	小砂利・砂	—	—	23
		10	後	C	有	土堤端	80 × 50	小砂利・砂	厚７cm	—	
	9次	16	後	C	2	貯蔵穴間	86 × 56	小砂利	径0.2～0.8cm、厚10cm	—	35
馬場北		15	後	C	有	柱穴上	70 × 50	—	図示のみ	—	6
		21B	後	F	有	ピット脇	90 × 60	砂・小砂利	厚10cm、貯蔵穴とは別のピット脇	—	
		24	後	C	有	土堤端・上	100 × 90	砂・小砂利	厚15cm	—	
		37	後	C	有	土堤脇	80 × 60	砂・小砂利	厚20cm	—	
		43	後	C	有	やや離れる	36 × 26	砂・小砂利	厚５～８cm	—	
馬場北		66	後	C	無	—	90 × 40	砂・小砂利	厚５cm、砂赤褐色	—	11
馬場北		79	後	CD	無	土堤周囲	50 × 50	砂質土・小砂利	砂質土赤色	—	13
		81	後	C	有	土堤脇	60 × 60	砂質土・小砂利	2～3cm灰白色粘土粒が20×10cm程に分布、砂質土赤色	貯蔵穴周辺土器多	
		96	後	D	有	土堤周囲	—	砂質土・小砂利	砂質土赤色	—	
		102	後	C	有	土堤周囲	—	砂質土・小砂利	砂質土赤色	—	
馬場北	15次	141	後	D	有	土堤脇	25 × 25	小砂利	径0.5～1.5cm、少量	—	37
		143	後	C	無	—	50 × 50	小砂利	厚３cm	小型台付甕	
		134	後	BC	有	やや離れ	50 × 50	粘土・小砂利	厚２～３cm	付近に大型磨製石斧	
		138	後	C	有	土堤端	100 × 60	小砂利	小砂利径5mm前後多、最大1.5cmほど、ピット上	—	
西谷	5区	2	後	C	有	脇	60 × 35	小砂利・砂	小砂利径0.2～0.5cm、砂と混和。赤み帯びる。敷いた状態	—	7
		3	後	C	無	—	100 × 55	小砂利・砂	小砂利と砂混和、敷いた状態	—	
大北	12～14区	2	中	C	有	脇	85 × 65	小砂利・砂	小砂利径0.5～１cm、敷いた状態	甕破片２	7
		3	中	C	有	脇	90 × 55	小砂利・砂	小砂利径0.5～１cm、敷いた状態	—	
		4	中	C	有	脇	55 × 30	小砂利・砂	小砂利径0.5～１cm、敷いた状態	—	
		5	中	C	有	脇	55 × 30	小砂利・砂	小砂利径0.5～１cm、敷いた状態	—	
		6	中	C	有	やや離れ	85 × 40	小砂利・砂	小砂利径0.5～1.1cm。砂と混和、敷いた状態。	—	
	6次	2	中	C	有	土堤脇	80 × 70	砂	砂赤色	上に壺・甕各１、壺中砂充満	22
善前南	1次	4	後	C	有	内側脇	63 × 54	砂・小砂利	小砂利径0.5～１cm多	貯蔵穴上層から小型台付甕	8
		5	後	C	有	脇	45 × 35	砂・小砂利	小砂利径0.5cm前後多、厚約1cm、赤褐色帯びる	—	
	2次	6	後	C	有	脇	50 × 45	小砂利	厚２cm。浅い掘り込み上	—	58
宮前	1次	1	後	C？	—	—	42 × 30	小砂利・軽石	厚２～５cm、軽石若干、土は赤褐色	—	9
		2	後	C	—	—	62 × 48	小砂利・軽石	厚さ約２～５cm、軽石若干、土は赤褐色	—	
		3	後	C？	有？	ピット脇	40 × 36	小砂利・軽石	厚１～２cm、軽石若干、土は赤褐色	—	
		4	後	C	有	脇	60 × 50 30 × 26	小砂利・軽石	厚２～５cm、軽石若干、土は赤褐色	—	
	3次	1	後	C	有	土堤脇	15 × 15	小砂利	コーナーの一段高い部分からまとまって検出	付近から高坏脚片	12
梅所	1次	3	後	C	有	脇	85 × 75	砂・小砂利	厚約１cm、敷いた状態	—	10
上野田西台	3次	3	後	C	有	土堤脇	100 × 80	小砂利・砂	小砂利径0.7cm前後、厚約1cm、砂赤褐色	—	14
		8	後	C	有	脇	—	小砂利・砂	撹乱のため詳細不明	—	
		13	後	C	有	脇	50 × 30	小砂利・砂	厚６cm	—	
		18	後	C	有	脇	145 × 75	砂・小砂利	—	付近から甕3個	
北宿		54	中	C	有	やや離れ	40 × 20	小砂利	床面よりわずかに浮く	—	15
上野田西台	4次	22	中	E	有	?	—	小砂利・砂	小砂利赤色	—	16
		24	後	C	有	脇	45 × 30	小砂利・砂	小砂利赤み帯びる	—	
大間木会ノ谷	2次	8	古	C	有	脇	100 × 70	小砂利・砂	—	貯蔵穴周辺土器多	17
		11	後	C	有	土堤端	60 × 40	小砂利・砂	—	北東コーナーに壺、小型台付甕	
	3次	15	古	C	有	土堤脇	83 × 53	小砂利・砂	—	貯蔵穴に土器４	20
谷ノ前	1次	1	中	中央	—	—	12 × 12	小石と土器片	構成材14点かたまって出土	—	18
本杢	3地点	9	古	C	有	土堤端	160 × 110	砂・小砂利	小砂利少量	甕、椀	19
北宿	17次	76	後	C	有	脇	60 × 60	小砂利・砂	15cm程度の掘り込みを埋める	小砂利上に小型台付甕	21
		88	後	A	2	覆土中	50 × 35	小砂利	北側貯蔵穴覆土中	—	
		93	後	C	有	土堤間、ピット上	100 × 85	小砂利	柱穴を覆う	—	
		94	後	C	有	脇	85 × 55	小砂利	—	—	
		97	後	C	有	土堤端	40 × 25	小砂利か	図示のみ	—	
		98	後	C	有	脇・上	63 × 63	小砂利	円形状の分布	—	
		99	後	C	有	土堤脇	140 × 120	小砂利	—	—	
		107	後	C	無	—	90 × 45	小砂利	半円形状の分布	—	
中原後	2次	7	古	C	有	脇	50 × 30	小砂利	—	土器は東角、砂利は南角に多	24
上ノ宮	1次	1	後	C	無	—	30 × 20	小砂利	わずかに赤み帯びる	—	26
		3	後	D	—	炉跡正面含む	—	小砂利	—	—	
	3次	2	後	CD	有	土堤端	44 × 28	小砂利	浅い掘り込み上	—	57
大久保領家片町	5地点	30	古	C	無	コーナー接合	110 × 50	小砂利	径１cmほど	—	27
				C		内寄り	70 × 60	小砂利	径１cmほど	—	
大崎北久保	1次	2	後	C	2	脇	70 × 55	砂・小砂利	呼称「赤砂利堆積施設」、色素は酸化第２鉄	—	28
東　裏	3次	2	後	C	有	上	85 × 60	小砂利・土	小砂利と土混和	—	29
		3	後	C	有	上	140 × 115	小砂利・土	—	土器片一括	
太田窪貝塚	1次	2	中	C	有	脇	70 × 一	砂・小砂利	堆積ややまばら	貯蔵穴に太型蛤刃石斧	32
		13	中	C	有	脇	140 × 一	砂・小砂利	—	—	
		1	古	C	有	脇	95 × 85	砂・小砂利	厚10cmの台状	周囲に壺・甕・高杯	
		14	古	C	有	脇	95 × 60	砂・小砂利	貯蔵穴上に少しかかる	上に胴部穿孔小型壺２	
		15	古	C	有	脇	40 × 30	砂・小砂利	—	—	

表１「祭壇状遺構」一覧（１）

時期：弥生中・後期、古墳前期
位置：第１図に準拠

遺跡名	調査	遺構	時期	位置	貯蔵穴	位置関係	規模（cm）	構成材	特記事項	遺物関連事項	文献
行　谷	2次	3	後	C	有	脇	80 × 80	砂・小砂利	厚５cm	少量の土器	33
		4	後	C	有	上・土堤・脇	150 × 100	砂・小砂利	堆積多量、厚15cm	少量の土器	
		6	後	C	有	土堤端	50 × 30	砂・小砂利	深９cmの掘り込み上。貝巣穴痕泥岩数点	－	
		8	後	C	有	土堤端	85 × 50	砂・小砂利	厚７cm	－	
東浦西	2次	4	後	C	有	脇やや離れ	128 × 68	小砂利	深８cmの掘り込み上	上に壺上半と甑	34
松木北	3次	6	後	C	有	土堤端・上	120 × 60	小砂利・砂	－	－	36
染谷遺跡群		S-17	古	C	有	脇	90 × 50	焼土？	－	－	38
鎌倉公園	1次	25	後	A	無	無	70 × 65	砂・小砂利	本文参照	－	39
		27	後	C	有	土堤脇	－	小砂利	－	－	
深作東部遺跡群		A-16	後	C？	有	脇	130 × 75	白色粒子・小砂利	－	上に壺	40
北袋	1次	5	後	C	有	土堤脇	65 × 25	小砂利	床面直上	上に台付甕脚部	41
		28	後	C	有	土堤端	100 × 65	小砂利	－	－	
A-61	1次	1	後	C	有	脇	50 × 35	砂・小砂利	小砂利径3～10mm	－	42
		3	後	C	有	脇	90 × 60	砂	－	小坩	
			後	D		上	60 × 45	小砂利	小砂利径3～10mm	－	
		6	後	C	有	土堤脇	30 × 20	砂	－	－	
		7	後	C	有	脇	55 × 30	砂・小砂利	小砂利径3～10mm	－	
			後	中		やや内寄り	35 × 20	砂・小砂利	小砂利径3～10mm	－	
		8	後	C	有	脇	85 × 70	砂・小砂利	小砂利径3～10mm	－	
	2次	11	後	C	有	脇	110 × 30	小砂利	小砂利径3～10mm	台付甕など集中出土	52
		13	後	D	有	脇	55 × 55	粘土・小砂利	小砂利径3～10mm、小砂利混じる土の上に粘土	土器まとまる	
		14	後	C	有	脇	60 × 45	粘土・小砂利	小砂利径3～10mm	高杯・器台などまとまる	
		17	後	C	有	脇	30 × 20	小砂利	小砂利径3～10mm	－	
		19	後	B C	有	脇	100 × 30	小砂利	小砂利径3～10mm	－	
		23	後	C	有	脇	90 × 70	小砂利	小砂利径3～10mm	－	
		24	後	D	有	脇	70 × 30	小砂利	小砂利径3～10mm	周辺に土器まとまる	
三崎台〈A－239〉	2次	8	後	B	有	別のピット上	40 × 35	小砂利	－	－	43
	3次	19	後	C	有	土堤脇	120 × 80	赤褐色砂質土・小砂利	砂質土は赤褐色	小型高杯埋置	49
		28	後	C	有	土堤脇	50 × 25	土・小砂利	土赤褐色	－	
			後	C		土堤基部上	60 × 70	土・小砂利	土赤褐色	小型鉢埋置	
		37	後	C	有	脇	130 × 100	土・小砂利	土赤褐色	中に土製品	
		52	後	C	有	脇	30 × 50	土・小砂利	土赤褐色	－	
B－7	1次	2	後	C	有	土堤脇	110 × 50	小砂利・土	土暗赤褐色、ピット覆う	－	44
		3	後	C	有	脇	90 × 60	小砂利	ピット覆う	－	
		11	後	B C	有	脇	160 × 50	小砂利・土	土暗赤褐色、壁側面から床面上に堆積	－	
C－26	1次	1	古	C	有	貯蔵穴覆う	100 × 50	砂・小砂利	2～3cmの灰白色粘土粒が20×10cm程に分布	－	45
		4	古	C	有	脇	70 × 55	砂・小砂利	焼土とロームを僅かに含む暗褐色土中から多数まとまって出土	－	
深作稲荷台	2・3次	13	後	C	有	離れ	一 × 70	山砂・小砂利	砂、礫混和、敷かれた状態、中央に焼土	砂中から台付甕脚部	46
		17	後	C	無	－	70 × 45	小砂利・山砂	礫、砂混和、敷かれた状態、厚20cm	中に土器破片多	
		26	古	C	有	上	55 × 40	砂	－	完形土器まとまる	
土屋下	1次	1	後	？	有	－	－	小砂利	記述のみ	－	47
		2	後	C	有	脇中寄り	60 × 30	小砂利	－	－	
		30	後	B C	有	脇	180 × 130	小砂利	－	－	
		40	後	B C	有	やや離れ	20 × 15	小砂利	－	－	
			後	C D		やや離れ	30 × 20	小砂利	－	－	
		45	後	？	有	別の壁面	50 × 一	小砂利	炉無く位置区分不能、壁際	－	
A－146	1次	8	後	C？	有	脇	170 × 90	小砂利・焼土	小砂利上に焼土？	－	48
御蔵山中	3次	14	古	C	有	脇	90 × 70	小砂利	2～10mm赤色・白色小砂利・白色砂粒とベンガラらしい赤色粒子	－	50
		15	古	C	有	脇	45 × 30	小砂利	高７cm	－	
峰岸北	1次	11	古	C	有	脇	140 × 75	小砂利	75×80cmの浅い窪み上	－	51
		21	古	C	有	脇	120 × 90	小砂利	堆積底部に径30cmの円形小砂利層か？	－	
大和田本村北	2次	10	中	C	有	脇	35 × 40	小砂利	貯蔵穴脇を一段低く掘り込み、埋め固めた上に盛り上げ	付近に土器まとまる	53
				C		脇・やや離れ	60 × 50	小砂利	コーナー接して盛り上げ	付近に土器まとまる	
中里	3次	1	後	C	有	脇	40 × 35	砂	浅い掘り込み上	－	54
中里前原北	1次	2	後	C	有	脇	60 × 50	小砂利	小砂利多数、やや浮く	－	55
		3	後	C D	2	脇	20 × 10	小砂利	小砂利多数、やや浮く、周辺の土赤み	－	
	3次	2	後	C	有	土堤脇	50 × 40	砂・小砂利	厚７cm	－	61
側ヶ谷戸貝塚	4次	1	古	C	有	脇	100 × 90	小砂利	－	－	56
大谷場小池下	1次	12	後	C	有	脇	135 × 55	砂	柱穴を覆う、覆土下層には至らず、砂は暗赤褐色	甕破片散在	59
		13	後	C	有	脇	150 × 110	小砂利	多量の小砂利に覆われる	－	
		14	後	C	有	土堤脇	80 × 45	小砂利	貯蔵穴には入らず	－	
		17	後	C	有	土堤上・脇	90 × 40	小砂利	ピットに小石	－	
		18	後	C	有	土堤脇	40 × 30	小砂利	－	－	
札の辻３号	4次	12	古	C	有	土堤端	50 × 45	小砂利	うっすら赤い、微細な小砂利のため検出困難	－	60
下野田本村	5次	25	中	C	有	脇やや離れ	70 × 40	小砂利	扇形、厚さ４cm	－	63
立葉	2次	4	後	C	有	脇、一部重なる	98 × 33	小砂利	厚10cm、浅い掘り込み上	－	65
		8	後	C	有	土堤脇	130 × 80	小砂利	浅い掘り込み上	脇から小型坩１	
		9	後	C	有	脇	90 × 70	小砂利	－	－	
		15	後	C	有	脇	100 × 50	小砂利	浅い掘り込み上	－	
		16	後	C	有	脇	130 × 80	小砂利	一部貯蔵穴にかかる	－	
		17	後	C	有	脇やや離れ	80 × 70	小砂利	２個の小ピットを覆う	－	
横根野方	1次	3	後	C	有	脇	40 × 25	ベンガラか	赤色物質はベンガラの可能性	壺破片、上部に舟形土製品	66
日向北	4・5次	15	後	C	有	土堤脇	90 × 60	小砂利	－	－	67
		20	後	C	有	土堤端	100 × 40	小砂利	－	－	
		22	後	C	有	土堤脇	80 × 50	小砂利	－	－	
		43	後	C	有	土堤脇	60 × 40	小砂利	－	－	
		49	後	C	有	土堤端	60 × 45	小砂利	－	貯蔵穴から鉢	
		51	後	C	有	土堤脇・上	50 × 40	小砂利	－	－	
木曽呂北	1次	4	後	C	有	脇	55 × 55	小砂利	－	付近に壺、台付甕、甑	68
戸塚５丁目	2・4次	4	後	C	2	近接	－	小砂利・砂	貯蔵穴周辺	北東側の貯蔵穴に集中	69
	5次	3	後	中	有	炉	70 × 40	小砂利	小砂利炉から28点集中出土	－	70
		4	後	C	有	脇	－	小砂利	ピットから小砂利多量に出土	－	
	6次	1	後	C	有	土堤脇	60 × 40	小砂利か	図示のみ	－	72
		2	後	C	有	上	100 × 60	小砂利か	図示のみ	－	
小谷場貝塚	6次	2	後	C	有	脇	95 × 45	砂・小砂利	－	－	71
		10	後	－	無	－	－ × 47	砂・小砂利	厚約８cm	－	
	9次	30	後	覆土	－	－	－	小砂利	覆土中からまとまって検出。径１cm以下	－	
札の辻	1次	72	後	C	有	土堤端	90 × 50	細砂粒・小砂利	小砂利径0.1～1cm、総量約　500ｇ	－	73
稲荷台	B区	48	古	C	有	やや離れ	100 × 80	小砂利	径１～３cm、範囲不明瞭、炉からも出土	－	74
		49	古	C	有	脇	105 × 70	小砂利	径１～４cm、範囲不明瞭、炉からも出土	－	
		50	古	覆土	有	－	－	小砂利	覆土中	－	
		51	古	C	有	脇	70 × 50	小砂利	本文参照	－	
		53	古	C	有	脇	55 × 55	小砂利	径１～３cm、範囲は不明瞭	－	
		54	古	覆土	有	－	－	小砂利	覆土中	－	

表２「祭壇状遺構」一覧（２）

遺構	時期	位置	貯蔵穴	位置関係	規模（cm）	構成材	特記事項
3	Ⅰ	C	有	脇・離	180 × 60	小砂利、砂	
6	Ⅱ	C	有	土堤端	100 × 60	砂、小砂利、粘土粒	
		D		土堤脇	100 × 60	砂、小砂利、粘土粒	
7	Ⅱ	CD	有	柱穴脇	90 × 60	砂、小砂利	
8	Ⅱ	CD	有	柱穴脇	220 × 100	砂、小砂利、粘土粒・灰など	
9	Ⅱ	C	無	—	80 × 50	砂、小砂利	
13	Ⅲ	CD	有	脇・離	80 × 40	砂、小砂利	
16	Ⅲ	A	有	脇・離	80 × 60	砂、小砂利	貯蔵穴ともA、遺物集中
21	Ⅱ	C	無	—	120 × 50	砂	
30	Ⅱ	C	有	脇	180 × 100	—	遺物集中
31	Ⅱ	A	有	別コーナー	60 × 40	灰、小砂利	
		C		上	130 × 70	灰、小砂利	貯蔵穴覆土上層に混入
32	Ⅱ	C	有	土堤脇	160 × 100	砂、小砂利	柱穴含む
37	Ⅲ	C	無	離	110 × 70	砂、小砂利	出入口ピットのみ
49	Ⅲ	D	無	脇	90 × 60	小砂利	出入口ピットのみ
50	Ⅱ	C	無	—	90 × 60	砂、小砂利	
58	Ⅱ	C	有	土堤端	100 × 90	小砂利、灰を含む砂質	柱穴含む
61	Ⅱ	C	有	脇	90 × 40	灰が若干混じった砂質	
63	—	C	有	脇	80 × 50	砂の層	
71	Ⅱ	C	有	土堤端	120 × 90	—	
73	Ⅱ	C	無	脇	200 × 150	小石、砂	出入口ピットのみ
74	Ⅱ	CD	有	土堤付近	—	砂、小砂利	図示による
78	Ⅲ	CD	有	脇	140 × 100	砂、小砂利	
79	Ⅲ	C	有	土堤上・脇	160 × 70	砂、小砂利	
80	Ⅱ	C	有	上・脇	90 × 90	砂、小砂利	
82	Ⅲ	C	有	土堤端	100 × 90	砂、小砂利	
				やや離れ	130 × 90	砂、小砂利	
86	Ⅲ	C	有	脇	110 × 70	砂、小砂利	
87	Ⅲ	C	有	上	120 × 60	—	上に台付甕２
92	Ⅲ	C	有	脇	120 × 40	砂、小砂利	
98	Ⅲ	C	有	脇	90 × 60	—	
102	Ⅲ	C	有	脇	55 × 35	砂	
105	Ⅱ	C	有	やや離れ	140 × 80	砂、灰混じりの層	
108	Ⅱ	C	有	脇	120 × 55	砂、小砂利	
115	Ⅱ	C	有	上・脇	160 × 110	砂、小砂利	台付甕、ミニチュア
124	Ⅱ	C	有	やや離れ	130 × 80	砂、小砂利	壺、台付甕、小型台付甕
128	Ⅱ	C	有	土堤端	90 × 45	砂、小砂利	
133	Ⅱ	C	有	土堤端	150 × 50	—	
136	Ⅲ	C	有	脇	120 × 90	砂、小砂利	構築前から含有
137	Ⅲ	C	有	脇	110 × 70	砂、小砂利	浅い掘り込み上
138	Ⅱ	C	有	土堤上・脇	200 × 90	砂、小砂利	
139	Ⅱ	CD	有	上	160 × 60	砂、小砂利	
156	Ⅱ	C	有	やや離れ	60 × 40	砂、小砂利	
163	Ⅱ	CD	有	上・脇	320 × 120	砂、小砂利	粘土粒分布近接
164	Ⅱ	CD	無	—	160 × 70	砂、小砂利	
166	Ⅱ	C	有	上・土堤脇	170 × 70	砂、小砂利	
168	Ⅱ	C	有	上・脇	200 × 110	砂、小砂利	
173	Ⅱ	C	有	上・土堤上	140 × 120	砂、小砂利	柱穴含む
174	Ⅱ	C	有	土堤端	110 × 80	砂、小砂利	台付甕等集中
184	Ⅱ	C	無	土堤端	240 × 80	砂、小砂利	
186	Ⅱ	C	有	土堤上・脇	180 × 80	砂、小砂利	
188	Ⅱ	A	有	上・脇	120 × 120	砂、小砂利	貯蔵穴ともA
196	Ⅱ	C	有	脇	140 × 60	砂、小砂利	
197	Ⅱ	C	有	脇	30 × 20	砂、小砂利	
200	Ⅱ	D	有	脇	100 × 60	砂、小砂利	

表３　神谷原遺跡「祭壇状遺構」一覧

時期：神谷原編年Ⅰ～Ⅲ期
位置：第１図に準拠

いる。一方、前出の御蔵山中遺跡３住では赤白２色の小砂利と「白色粒子」、同じくＣ－26号遺跡１住で白色粘土塊の使用が報告されており、赤に加え白色の効果も加味されたようだ。いずれも施設の特殊性を強調する効果が期待されたのだろう。

（４）下部構造

遺構が設置された床面とその下層の状況から以下のとおり分類される。

①平板な床面上に展開するもの（第２図２、第３図）

②床面の浅い窪みを埋め立てる、もしくはその中に落ち込んでいるもの（第２図５）

③深く明瞭なピット（「貯蔵穴」を含む）と重複するもの（第２図４・６）

④「貯蔵穴」を囲む土堤状の盛り上がり（以下「土堤」）に近接・重複するもの（第２図７）

またこれらの複数が重なる例（③・④など）もある。

①は、状況が特記されていないものの多くがこれに属するとみられる。②は、窪みの存在が遺構に対応しており、その設置を前提に用意された一体の構造といえる。それが住居の建設時に遡る、つまり当初の設計図に載せられていたものか、あるいは居住の過程で二次的に付加されたのかは確認を要する。この問題は、次の③にも共有される。③は、一概に重複しているとは言えても、報告の記述が不十分で、状況が正確に把握できない場合が多い。平面図からは、ア：ピットが遺構を貫通している、イ：開口したピットに遺構の構成材が流れ込んでいる、ウ：既に埋め立てられ平坦化したピットの上面に遺構が載っている、いずれなのか特定が難しい。ではあるが、重複する例は複数確認できる。戸塚５丁目遺跡５次調査２住（第２図６）では、断面図から「祭壇状遺構」（１～５層）が、６・７層土で埋まった直下のピットを覆うように設置されている状況が判る。Ｃ－26号遺跡１住も同様な例だろう。Ａ－61号遺跡３住（文42・第２図３）では、砂層と小砂利層が平面上ずれて分布し、小砂利層が、埋まったピット上面にやや窪んで載っている。

③の詳細が知られる鎌倉公園遺跡25住（文39）例を掲げる。

「Ｐ２の上層には、壁と床面の間にテラス状の壇があり、上面は床面同様に硬い。さらに下層には砂質上の堆積が認められた。また周辺には砂・小砂利が散布していた。それらを取り除くとＰ２の落ち込みが現われた。これらを考えると住居居住時はＰ２は埋没しており壁下にテラス状の高まりが存在していたことになる。」（Ｐ２は深64.0cm）

④については、「土堤」対「祭壇状遺構」の関係を考えるより、「貯蔵穴」対「祭壇状遺構」の間に、前者の付属施設としての「土堤」が割り込んだと捉えるべきかもしれない。距離を置く、接触する、一部被る、完全に載る、と、些細ながら位置関係には数パタンがある。

下部構造に関しては、以上と別になるが、神谷原遺跡136住（文75）の報告が注目される。「東隅に小砂利、砂の分布する範囲が認められた」この住居跡は、「掘り方を調査した際、貼り床、掘り方の底面にも同じく、小砂利、砂が観察され、貼り床を築く前にすでにこれらを混ぜていたと考えられる。」とされる。これら構成材が、上部構造での使用にとどまらず、住居建設段階で使用されたことが指摘されており、分布範囲が不明なのは惜しまれるが、「祭壇状遺構」と住居本体の関係を示す重要な知見である。

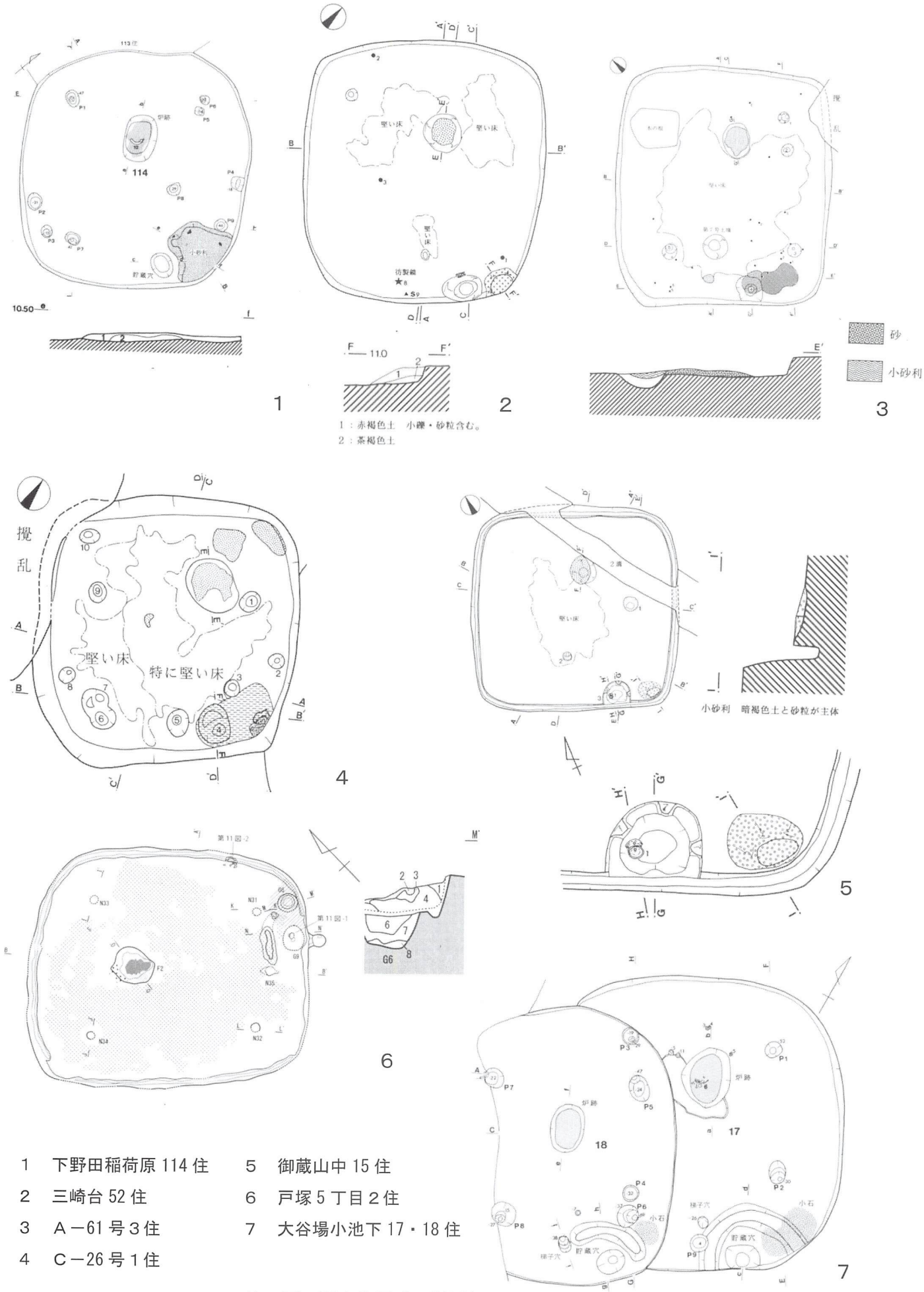
（５）「貯蔵穴」と「祭壇状遺構」

先述の通り「貯蔵穴」は、住居内のＣ空間で「祭壇状遺構」と同居するのがほぼ通例である。そこから両者の親縁性は容易に窺われる。先に触れた第２図３・４・６もそうである。そこに見られる、埋め殺された「貯蔵穴」を「祭壇状遺構」が覆う状況は、「貯蔵穴」が本来的機能の喪失を経て「祭壇状遺構」と結合したのか、あるいはもとより実用的な貯蔵機能とは無縁な、「埋め立てられてこそ」のピットだったということか。小倉は、火災住居における例を引いて、「貯蔵穴と呼ばれるピット」が「住居埋没以前に埋没していた可能性」を念頭に、「床下収納庫的なものではなく祭祀のための施設」との見方を示している（小倉前掲ｐ.120）。重要な指摘である。

少なくとも「貯蔵穴」が、住空間の中で、「床下収納庫」ではなく「祭壇状遺構」に関連する施設であった可能性が認められる。両者の関係には、前節④とした「土堤」の存在も絡む。三者を視野に状況を再整理した上で、それらを含む屋内祭祀の場の広がりを確認する必要がある。「貯蔵穴」の再検討は、「祭壇状遺構」の精査と対になる課題といえるだろう。

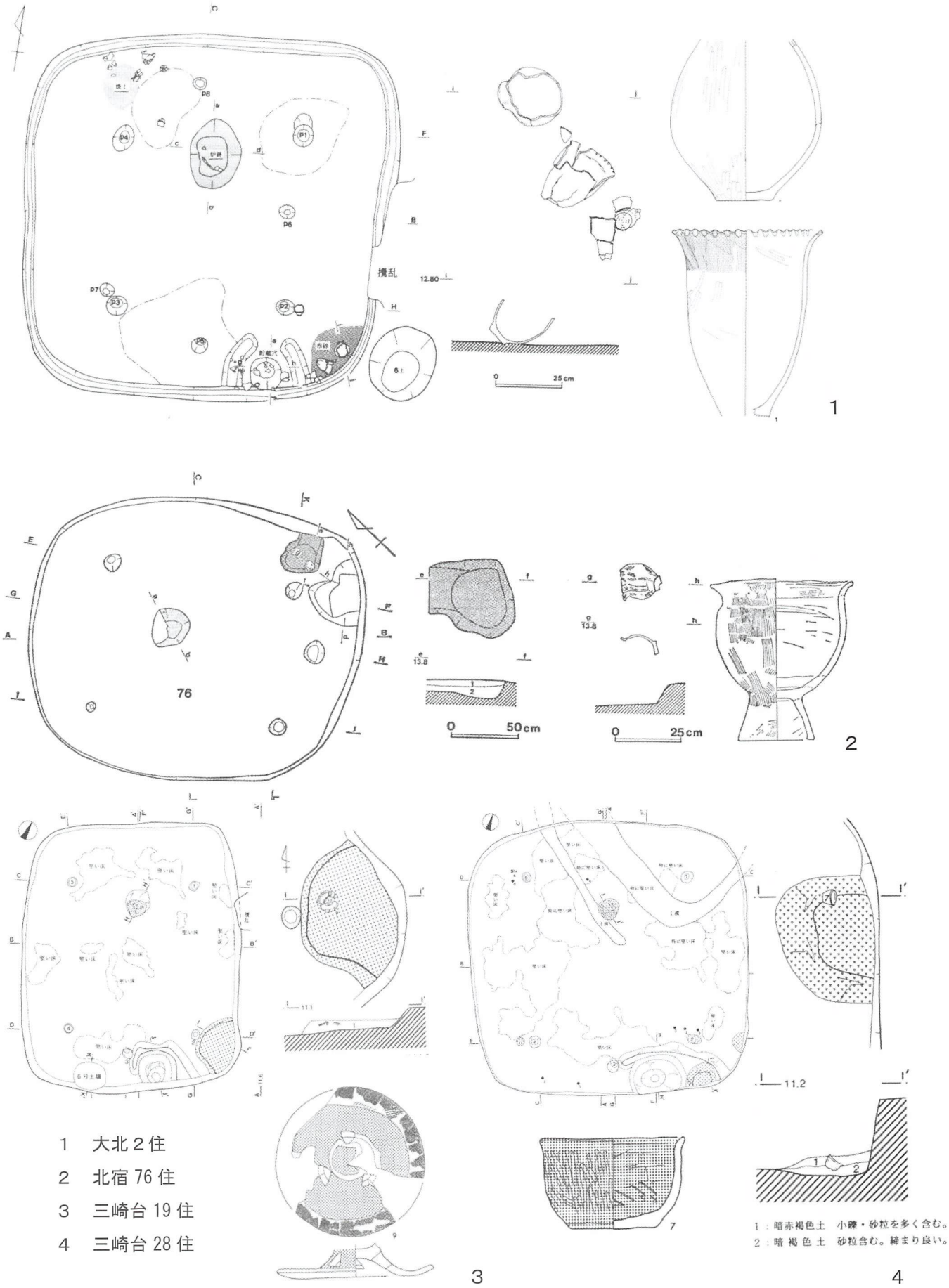
（６）遺物との関わり

「祭壇状遺構」からは、そこを舞台とした祭祀行為の遺留品とみられる土器が出土している。弥生中期大北遺跡６次２住（文22・第３図２）では、遺構上で壺と甕各１個体がセットとになり、壺の内部には砂が充満していた。同じく中期大和田本村北遺跡10住（文53）では、「貯蔵穴」上面から「遺構」周辺にかけて土器がまとまって出土した。「祭壇状遺構」に土器を置くスタイルは、このように中期から例が確認される。後期では、北宿遺跡76住（文21・第３図２）で小型台付甕、太田窪貝塚14住（文32）では胴部を穿孔された小型壺２個体があるなど、日常用形式から祭器に特化したとみられる土器との関連が見出される。また土器が遺構と一体化した例がある。深作稲荷台遺跡17住（文46）では、破砕された土器が構成材に混ぜられていた。三崎台遺跡19住では小型高杯（出土は脚部のみ）、28住では赤彩された小型椀が遺構にほぼ正立して「埋置」されていた（第３図３・４）。断面図からは、遺構の上層に埋め込まれている状況が読み取れる。以上の事例から、土器と「祭壇状遺構」の関係が、供献から融合へと進化した、あるいは日常生活から



1　下野田稲荷原 114 住
2　三崎台 52 住
3　A－61 号３住
4　C－26 号１住
5　御蔵山中 15 住
6　戸塚５丁目２住
7　大谷場小池下 17・18 住

第２図　竪穴住居跡の「祭壇状遺構」　（縮尺不同）



第３図　「祭壇状遺構」と出土土器　（縮尺不同）

祭祀のスタイルを独自化させていったとここで強弁するつもりはない。遺物を伴わない場合も多く、また祭祀用とみられる土器は、そこに限って出土するものでもない。炉辺に類似の土器が遺留された例もある。ともあれ弥生時代から古墳時代への推移を追うに当たり、屋内のいずれであれ祭祀の舞台に土器がどうかかわったは重要な視点である。

おわりに

考古資料には、意匠が際立つほど「呪術」や「祭祀」が付きまとう。弥生時代から古墳時代にかけて、祭祀は個人単位の精神生活を越え、集団を規制する社会的装置として整備されていく。ところで住居跡出土の土器は、生活必需品としての実用性と、それに反する非合理性を示す二面の顔を持つ。後者が祭器としての顔なら、プライベート空間でのマツリにおいて、それは共に豊穣を願う家族の絆の象徴か、あるいは外部と繋がる社会的装置の端末であったか。

土器研究から見た古墳時代の到来において、丸底坩・鉢・器台・高杯からなる小型精製土器群の進出は、画期的事象と認められてきた。一方それ以前に見出される小型土器群の存在は、少なくとも南関東においては、むしろ等閑視されているように思える。その系譜が在来の後期弥生土器に遡るのであれ他地域に連なるものであれ、小型精製土器群が、先行する小型土器群の存在意義を継承したのか一新させたか、あるいは両面を折衷したか。いずれにせよ両者の関係を時間軸上で整理し紡ぐ作業は、今なお課題といえる(4)。

砂と小砂利の赤い「祭壇状遺構」は、注目すべき空間標識である。屋内祭祀の舞台装置としてそれはどう機能したか。具体像を明らかにする作業は、土器研究において「弥生時代から古墳時代へ」の叙述を試みる上でも重要な位置を占めると思う。

本稿では、空間(＝舞台装置)の描写にほぼ終始した。そこで土器はいかなるあり方を示しているのか。住居内全体に視野を広げつつ、その追求を次なる課題としたい。

《註》

(1)表1・2の「時期」欄では、「弥生時代後期終末」・「古墳時代初頭」の区分を用いなかった。両者を截然と区分する労苦をひとまず回避したためである。表の「後」は、それらの大半を含んでいる。

(2)遺構の範囲を示す数値は、報告に明記されているものと、それがないことから、掲載図の計測によったものがある。多くは、後者である。多様な平面形に敢えて長・短径を求めたもので、ごく大まかな目安と見ていただきたい。また素材のうち小岩石類は、「小砂利」のほか「小礫」、「砂利」、「小石」などと報告されているが「小砂利」に統一した。

(3)「後世のごとく社殿の構築されない段階では、まず祭神の降臨する祭場を設定するため山麓や丘陵など樹木の繁茂する神聖な地域を清掃し、海や川から採ってきた小石や砂を敷く。そして榊・檜・松・杉などの常盤木を立て、神霊の憑着する依り代とする。」桜井徳太郎「まつり【祭】」『国史大辞典』(吉川弘文館)1992

(4)この点西川修一の仕事は、先駆的存在として示唆に富む(西川1992)。

《参考・引用文献》

小倉　均　1988　「弥生時代から古墳時代にかけての小礫などが散布する住居跡について」『浦和市史研究』第3号　浦和市

同　　1990　「弥生時代から古墳時代にかけてみられる祭壇状遺構の研究」『埼玉考古』第27号

西川修一　1992　「特殊壺になれなかった壺」『古代』第94号

報告書

浦和市内遺跡発掘調査報告書　発行　浦和市教育委員会

1　『大古里遺跡(第９・10・11・12地点)　稲荷原遺跡』第15集　1991
2　『本太５丁目遺跡　宮本遺跡』第21集　1994
3　『井沼方遺跡・井沼方南遺跡』第25集　1997
4　『大古里遺跡・井沼方遺跡・井沼方南遺跡』第26集　1998

浦和市遺跡調査会報告書　発行　浦和市遺跡調査会

5　『別所子野上遺跡発掘調査報告書』第22集　1982
6　『北宿、馬場北、馬場東、馬場・小室山遺跡発掘調査報告書』第24集　1983
7　『西谷・和田南・大北・大間木内谷遺跡発掘調査報告書』第25集　1983
8　『善前南遺跡発掘調査報告書』第30集　1983
9　『吉場、西谷、宮前、大間木内谷、和田西遺跡発掘調査報告書』第34集　1984
10　『梅所遺跡発掘調査報告書』第43集　1984
11　『馬場北・馬場小室山遺跡発掘調査報告書』第50集　1985
12　『和田南、宮前、西谷、和田西、大間木内谷、吉場遺跡発掘調査報告書』第58集　1986
13　『北宿・馬場北・馬場小室山遺跡発掘調査報告書』第62集　1986
14　『上野田西台遺跡発掘調査報告書』第73集　1987
15　『北宿遺跡発掘調査報告書』第99集　1988
16　『上野田西台遺跡(第４次)発掘調査報告書』第108集　1988
17　『会ノ谷遺跡発掘調査報告書(第２次)』第110集　1989
18　『谷ノ前遺跡発掘調査報告書』第115集　1989
19　『本杢遺跡発掘調査報告書(第３地点)』第122集　1989
20　『会ノ谷遺跡発掘調査報告書(第３次)』第145集　1991
21　『北宿遺跡発掘調査報告書(第17次)』第151集　1992
22　『大北遺跡発掘調査報告書(第６次)』第156集　1992
23　『子野上遺跡発掘調査報告書(第４次)』第159集　1992
24　『中原後遺跡発掘調査報告書(第７次)』第177集　1994
25　『井沼方遺跡発掘調査報告書(第12次)』第185集　1994
26　『上ノ宮遺跡発掘調査報告書』第186集　1994
27　『大久保領家片町遺跡(第13地点)』第215集　1996
28　『大崎東新井遺跡(第２次)、大崎北久保遺跡(第１次、第２次)、鶴巻西遺跡(第２次)発掘調査報告書』第216集　1996
29　『東裏遺跡発掘調査報告書(第３次)』第217集　1996
30　『井沼方遺跡発掘調査報告書(第16次)』第231集　1997
31　『井沼方遺跡(第13・14・15次)・井沼方南遺跡発掘調査報告書』第241集　1998
32　『太田窪貝塚発掘調査報告書』第255集　1999
33　『椚谷遺跡(第７次)・南方上台遺跡(第１次)・行谷遺跡(第２次)発掘調査報告書』第274集　2000
34　『東裏西遺跡(第２次)・東浦遺跡(第４次)・下野田稲荷原遺跡(第３次)・大門西裏南遺跡(第２次)発掘調査報告書』第277集　2000
35　『別所子野上遺跡発掘調査報告書(第９次)』第286集　2000

浦和市東部遺跡群発掘調査報告書　発行　浦和市教育委員会・浦和市遺跡調査会

36　『馬場北遺跡(第６次)　北宿遺跡(第10次)　松木北遺跡(第３次)　松木遺跡(第５次)』第８集　1987
37　『馬場北遺跡(第15次)　松木遺跡(第12次)』第14集　1990

大宮市文化財調査報告　発行　大宮市教育委員会

38　『染谷遺跡群発掘調査報告』第20集　1986

大宮市遺跡調査会報告　発行　大宮市遺跡調査会

39　『鎌倉公園遺跡』第９集　1984

40　『深作東部遺跡群発掘調査報告』第10集　1984

41　『北袋遺跡』第19集　1987

42　『Ｂ－92号・Ａ－230号・Ａ－61号遺跡』第20集　1987

43　『Ａ－239号遺跡』第27集　1989

44　『Ｂ－101号遺跡　Ｂ－7号遺跡』第28集　1989

45　『Ｃ－26号遺跡』第41集　1993

46　『深作稲荷台遺跡－第２・３次調査－　Ａ－137号遺跡』第44集　1994

47　『土屋下遺跡』第47集　1994

48　『丸ヶ崎遺跡群－Ⅰ－』第50集　1995

49　『三崎台遺跡－第３次調査－』第56集　1996

50　『御蔵山中遺跡－第３次調査－』第57集　1996

51　『峰岸北遺跡』第59集　1998

52　『Ａ－61号遺跡－第２次調査－』第62集　1998

53　『大和田本村北遺跡－第２次調査－』第64集　1998

54　『中里遺跡－第３次調査－』第68集　2000

与野市文化財調査報告書　発行　与野市教育委員会

55　『中里前原北遺跡　上太寺遺跡』第13集　1988

さいたま市遺跡調査会報告書　発行　さいたま市遺跡調査会

56　『側ヶ谷戸貝塚－第４次調査－』第９集　2002

57　『下大久保新田遺跡（第５次）　西堀上ノ宮遺跡（第３次）』第31集　2004

58　『善前南遺跡（第２次）』第35集　2004

59　『大谷場小池下遺跡』第42集　2005

60　『札之辻３号遺跡（第３・４・５・６次）　今宮２号遺跡（第14次）』第48集　2006

61　『本杢遺跡（第９地点）　中里前原北遺跡（第３次）』第51集　2006

62　『下野田稲荷原遺跡（第７次・第８次）　下野田本村遺跡（第３次）』第57集　2007

63　『下野田稲荷原遺跡（第10次）　下野田本村遺跡（第４～６次）　中野田堀ノ内遺跡（第１次）』第107集　2010

64　『中野田堀ノ内遺跡（第２・３次）　下野田稲荷原遺跡（第11次）　下野田本村遺跡（第７次）』第115集　2011

65　『立葉遺跡（第２次）』第132集　2015

66　『横根野方遺跡』第157集　2014

67　『日向北遺跡（第４・５次）』第160集　2014

川口市遺跡調査会報告　発行　川口市遺跡調査会

68　『篠八ツ・木曽呂北・木曽呂』第14集　1991

69　『行衛往還通・戸塚５丁目遺跡』第26集　2004

70　『戸塚５丁目遺跡』第34集　2005

71　『小谷場貝塚』第40集　2011

72　『戸塚５丁目遺跡』第41集　2012

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　発行　財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

73　『札之辻・小井戸』第55集　1986

74　『稲荷台遺跡』第139集　1994

八王子市椚田遺跡調査会

75　『神谷原Ⅰ』　1981

76　『神谷原Ⅲ』　1982